

本をつなぐ、
本でつながる。

01号

2023年10月号

長屋通信

出版所:本の長屋 連絡先:本の長屋出版部 syuppan-dept@honnonagaya.com 題字・デザイン:二宮愛香

幕が上がる

「本の長屋」代表 狩野俊

すでにボロボロになっていている今年のスケジュール帖を見ている。2月5日に始まったクラウドファンディングは、順調に進み、3月22日の終了時には目標の200万円を大きく越えて320万円ほどが集まった。2月末から始まった工事は、天井や壁を落とす解体、柱や梁の修復など、これも問題なく進み、4月の開店は余裕と思っていた。桜は咲き、ウグイスは鳴き、春は我が世よと、私は唄うように生きていた。

4月1日、工事を任せていたKが、倒れ込むように現場で寝ていた。思えば、気力と体力の限界だったのだろう。翌2日が第一回の説明会。現場から中継するはずが、ネットの出力が弱く、急遽コクテイルで開催し配信をした。本格的な春の始まりとともに、暗い

雲が私と長屋を覆い始めた。スケジュール帖は真つ黒く書き込みだらけとなる。引きずり込まれるように、私も管理部Tさんも現場作業に吞まれていく。資材の買い出し、現場の廃材の処理、重圧に壊れ始まるK。作業が終わると、現場には、群がるように無頼な男たちが集まり、酒を呑み声を荒げ笑い声を響かせた。

酒瓶と空き缶とコンビニ二つまみを捨てることが私の朝の仕事になった。本棚は組まれたと思っただけで崩され、いつかはかどらず、時の流れは止まり、不条理劇の作中にいるようだった。これが私一人の店だったら、最悪の事態を一人で受け止めなければならない。多くの函店主の方がいて、その方にクラウドファンディングでお金を頂戴している。いつできるのか、約束できないのが、辛すぎて吐いた。

強引に開店日を設定し、Kを追い出し、店を開いた。それからKのやった作業のマイナスをゼロに戻し、別の職人を頼み、作り直した。正式開店日の6月1日には電気も通電しておらず、工事は続き、ようやく全体が形になったのがホンの数日前の8月19日のことだった。幕は閉じ、また上る。

さて、また幕が上がったようだ、セリフを言わなくては「お楽しみはこれからだ」。



狩野（後列左）と「本の長屋」管理部Tさん。

遠方の函店主と最年少の函店主とともに。



トークイベントの様子は以下のURLからご覧いただけます。

撮影にあたってはたまたま居合わせた函店主の辻村健太(オレオレランターナ)さんにご協力頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

https://www.youtube.com/watch?v=6K_gXvLs7qY



視聴QRコード

《古時計》函店主 古波藏 契



「本の長屋」西棟2階ギャラリーにて。

「本の長屋」ができる以前の長屋では、本屋を中心にした共同体を模索しようと、有志で読書会などを行っていて私はそこに加わっていた。そのときに知り合ったのが大橋さんという方だった。その読書会が終わった後も、交流が続いていた。狩野さん、大橋さんたちと話をするなかで、大橋さんの亡きお父様・大橋皓也さんの遺品を展示する企画が進んでいた。皓也さんは美術教育の現場に長年立ち、退職後は沖縄の造形文化に惹

かれた。今後は、皓也さんの収集した民芸品を展示していくが、そのときには実際に手に取る機会をもうけたい。視覚による情報だけではなく、触覚によって亡き人が見た景色に近づいていく。

プロジェクト「いかす」

メンバー 杉田 賢

特集 8月の月テーマ

沖縄

何かと沖縄に縁が深い「本の長屋」では、

この夏、函店主セレクトによる「沖縄フェア」を平台で展開。

沖縄にまつわる函店主企画のイベントや展示も催されました。



『ポスト島ぐるみの沖縄戦後史』刊行記念トークイベント

沖縄研究と学術出版の今を語る

この夏、高円寺の出版社・有志舎から『ポスト島ぐるみの沖縄戦後史』という本を出し、編集者で函店主の永滝稔さんと「本の長屋」で出版記念トークイベントを開いた。司会が事故で大幅に遅れたので、実質二人でいろいろと話した。本の紹介もそこそこに、本をつくる過程の紆余曲折を思い起こし、互いを労った。

永滝さんとは7年前にコクティル書房で出会った。初めて書いた論文が発表された頃だ。世話になつていた研究者の出版イベントの打ち上げの席で、書いた論文について話をした覚えがある。戦後沖縄の労働政策に関する、ややマニアックな論文だったが、永滝さんはしつかり読んでいて、自分が関わる高円寺での読書会についても熱く語ってくれた。

初対面の編集者が自分の論文を語る姿は、胸を熱くさせるものがあった。正直言つて、執筆中は雑誌への掲載自体が目標で、読者や読まれる空間のことを考える余裕はなかった。周知のように、大学の世界も激烈に疲弊している。追求すべきは自己の業績と身内の評判であり、社会的意義はお題目に終わりがちだ。生き残るために仕方ないと思っていた。

もちろん、今はそうは思わない。大学にいないと研究ができなわけでもない。むしろ大学の外とつながって初めて、自分なりに研究の主題と方法を掴めたように思う。2018年頃から、徐々に大学の外で活動することが増えてきた。論文は書き続けたが、それを様々なかたちに加工して、世に問うことに面白さを見出すよ

「本の長屋」展示企画 Vol.3

ひとりの美術教育者の遺品たち

——沖縄の南風(ばいかじ)に魅かれて

かれて何度も島々を訪れ、多くのスケッチや油彩画を残した。ご遺族から聞いたエピソードも交えて、それらの絵画を展示した。「本の長屋」の今夏は沖縄の風が吹いた。

皓也さんの存在を知ったのは、彼が亡くなってからで、会ったことはない。しかし、展示を企画してから頭の右のほうにぼんやりと顔が浮かぶ。なき人の感覚に寄せ

『ポスト島ぐるみの沖縄戦後史』
古波藏 契/著
発行:有志舎
定価:2,800円+税
沖縄戦後史研究の原点に立ち戻り、閉塞する沖縄の“今”を読み変える。
次世代のための沖縄戦後史。



『フリーダ・カロの日記―新たなまなざし―』を読む

「えほん＋∞」の屋号で函店主として参加しております東條知美と申します。本業は講師です。あちらでこちらで……長年流しのような感覚で本の仕事に携わってまいりましたが、「本の長屋」が繋ぐご縁を大切に、皆様及び高円寺と関わっていかれたらと思っております。どうぞよろしなに。

さてこの度、読書会【なんとなく目を逸らされがちな(ジェンダー)を読み、語る会】を始めさせていただきます。本はどう読



『フリーダ・カロの日記―新たなまなざし―』
フリーダ・カロ/著
星野由美・細野豊/訳
発行:富山房インターナショナル
定価:8,000円+税

むも自由ですが、この会では読書という行為にあえて「ジェンダー」の視点軸を設けております。言葉のやり取りから「個と社会のいま」が多少なり抽出できるのではと仮定、記録し、冊子の形にまとめることを目標としております。また、対話の中で私を含め各々が読書の本質に触れ、自他と社会を見直すきっかけにもなるのではないかと期待しております。過日、第一回【ジェンダー読書会通称】が開催されました。課

題本は『フリーダ・カロの日記: 新たなまなざし』フリーダ・カロ著／堀尾真紀子解説／星野由美、細野豊訳富山房インターナショナルで、ゲストは翻訳家の星野由美氏。メキシコを代表する近代画家フリーダ・カロ(1907-1955)最後の十年、痛みの中で彼女が描いた祈りと叫び。比喩や暗号の散りばめられた本書は読むほどに難解ですが、星野氏より数々のサジェストが示され、また参加者からは歴史、政治、芸術の観点から豊富な知識・新鮮な視点が提供されました。一人では叶わない読書会の醍醐味です。

《えほん＋∞》函店主 東條 知美

●次回案内

10月13日(金)18:30~20:30

『金子みすゞ童謡全集』を読む

＊ゲスト:北尾知子さん(編集者)

参加費:1,000円 定員:6名様

お申し込みは下記まで。

tomomit0115@gmail.com(東條)

課題本:『金子みすゞ童謡全集』

金子みすゞ詩/矢崎節夫監修/発行:JULA

出版局/発売:フレーベル館

イベント報告「ビートルズ本のつくりかた」

「好き」を本にするにはどうすれば？

去る8月15日、編集者の藤本国彦さんを講師に招き、「ビートルズ本のつくりかた」なるトークイベントを、「本の長屋」にて実施しました。藤本さんは、音楽雑誌の編集者を経て、現在は「ビートルズで食っている」という、ビートルズファンにとってある種、憧

れの存在。ふだんはミュージシャンなどを相手に聞き手役を務められることの多い藤本さんですが、今回は「語り手」として登場いただき、その独自の仕事術の一端について紹介していただきたい、という私自身の願いから、今回の催しを企画した次第です。



語り手の藤本国彦さん(元CDジャーナル編集長)は、著者/編集者/監修者として、多数の「ビートルズ本」を世に送り出してきた。

メディアなどではよく「ビートルズ研究家」と紹介されていますが、「ビートルズの魅力は常に権威的なものに抗ってきたこと」と常々語っている藤本さんが好む自称は「ビートルズやぐざ」。普段の表情は柔和かつ温和ながら、時折折間や会話から垣間見えるロックでパンクな姿勢には、超有名だけど実は特殊かつ過激なこのグルー

プの本質を、もつと理解してもらいたいという願いが込められているように思います。

前回トークでは、そんな藤本さんのビートルズ愛を軸に、様々なテーマの「ビートルズ本」をまとめ上げていく面白さと難しさについて掘り下げていきたい———と、思っていたのですが、当初の予想通り、2時間程度の尺では全く足りず(笑)、第2回を9月3日(日)に同じく「本の長屋」で開催しました。「様々な立場の人々主張や利害を調整していくこと」「既成の常識にとらわれないモノづくりを追求すること」のバランスをどのように取りながら、面白い本を作っていくのか? その秘訣について迫ります。そして、より深く「ビートルズ本」の世界を探るべく、第3回も年内に計画。1、2回を聞き逃した方もぜひお越しください。

《ホブナイル書房》函店主

安藤 誠

●第1回● 高円寺均一祭り

初日 ALL ¥200・2日目ALL ¥100

平日 10月18日(水)~19日(木)
開催 10時~18時 ※最終日は17時閉場

会場: 高円寺 西部古書会館
杉並区高円寺北2-19-9

秋季特別展
プロレタリア文化運動の
光芒
百年前、
歴史のダイナミズムを
生きた若き藝術家たち
9.16土
↓
11.25土
9:30~16:30
(入館は16:00まで)
観覧料
一般 300円ほか
公益財団法人 日本近代文学館
東京都目黒区駒場4-3-55 (駒場公園内)
※展覧会詳細は▶<https://www.bungakukan.or.jp>

長屋の催事「10月」
●10月18日(水)
読書会「まちの居場所づくりを考える」第二回:田中元子著「マイバブルックとグランドレベル」
私設公民館の実践に学ぶ
時間:19~21時
会費:一五〇〇円
定員:10名様
●10月30日(月)
トークイベント「丸ちゃん教授のツミナハナシ 課外授業」
立正大学法学部の丸山泰弘教授が配信中のPodcast「丸ちゃん教授のツミナハナシ」をトークイベントで開催。
ニュースでは聞けない犯罪学、刑事政策について、わかりやすく解説してくれます。
時間:19~21時くらい
参加費:五〇〇円
無罪手ぬぐい付き
お申し込み QR コード

もし自分に子どもができるなんてことが、万が一あったならば、本なんて読むような子にならないといいな、とか思う。本を読むなんて偉いねと言われて、読書感想文はいつも賞を貰ったし、友達に本を勧めれば「出会えてよかった、ありがとう」なんて言われて、文学の勉強をして、そのまま大人になった。何もわかってない。読書は最悪だ。本なんて読まなければ、見ないふりができた。想像せずにいられた。あれも。これも。

辞めたいです、と伝えた。本が好きで気持だけを抱えてやっと入った児童書の会社。本を読んだばかりに無駄に感度の高まりすぎた潔癖さのせいで、許せないことばかりが目についた。が耐えられなかった。理想と現実。理想とコスト。理想と妥協。理想と実力。理想と時間。散歩に向かない夏の東京の昼間。電車に乗る。携帯の充電が僅かで、仕方なくデスク

から引き上げてきた本を漁る。この期に及んでまた、本。平日の昼間なら山手線で絵本だつて読めちゃうなあと、馬鹿みたいに独りごつ。一番判型の大きな本を引き出す。母に買い与えてもらった絵本。こういう作品を守る仕事をしなかった。

隣に小さな男の子とお母さんが座った。絵本を仕舞おうとする、と、男の子は、私の手にする絵本を指さして、とり、とりだね！と声をあげる。眩い光の中に、鳩が二匹の表紙。擦り切れたカバー。「はっぴいさん はっぴいさん ぼくのねがいをきいてください」読む？と、男の子に差し出す。荒井良二の『はっぴいさん』。「は、はっぴい……」

辿々しく文字を辿る小さな目。反射光。目の前で起こる、最悪であまりに尊い小さな革命。

もし子どもができたなら本なん

ポルタコーヒースタンド

旅でも転居でも、国内外問わずこれから縁ができそうな街に初めて訪れる時、まずは珈琲店・カフェを探します。これは学生の頃から身につけてきた行動。店内に漂う「情報」でその街の空気を感じられます。

高円寺駅の南に伸びるアーケード、パル商店街に面したポルタさん。私にとっては職場から近すぎず、徒歩で適度な距離で、仕事の合間に立ち寄る大切な空間です。珈琲はもちろん店

主マサさんの穏やかな感じとウッディな内装が魅力。浅煎り、深煎りの豆、アレन्द्रリンク豊富でラテアートも美しく。私は基本ホット、そして珈琲をいただきます。これからの季節はチョコレートドリンクも楽しみです。

本と珈琲は相性がいい。「本屋帰りの方も立ち寄られますよ」とマサさん。美味しい珈琲に集中しつつ、次に行く場所を考え巡らせてみては。

《うやぎ舎books》 函店主



Porta Coffee Stand
杉並区高円寺南3-58-2
月～金11時～18時、土日10時～18時
Instagram: @portacoffeestand

本の長屋の あんなこと、 こんなこと。

本の長屋クロニクル
2023年2月～10月

2月(如月)

5日 MotionGalleryでクラウドファンディング開始



20日 クラファン目標金額達成。
23日 イベント「読む、書く、作る、売る。本の長屋でできること」

3月(弥生)

22日 達成率159%でクラファン終了。コレクター228人。
26日 工事開始。



4月(卯月)

2日 第1回説明会
9日 マニュアル説明会
10日 説明会+懇親会(通称「闇鍋の会」)

5月(皐月)

1日 「本の長屋」プレオープン。
6日 レンガ敷きワークショップ説明会+懇親会
12日 本棚仕上げワークショップ



13日 イベント「沖縄と高円寺をつなぐ読書会」
20日 イベント「角田光代×三砂慶明 読むこと、書くこと」



6月(水無月)

1日 「本の長屋」正式オープン。
4日 工事ワークショップ
10日 工事ワークショップ
17日 本の長屋・工事展記念トークショー+懇親会
24日 本の外函修繕ワークショップ



1日 7月の月テーマ「未来」スタート
15日 初めての函店主主催イベント「ビートルズ本のつくりかた」(第1回)
29日 イベント「豊崎由美×福田節郎 銭湯と酒場の話を長屋で」
30日 イベント「本の長屋的公開研究会Vol.1～末言語肉態研究ラボPPLシリーズ～」

8月(葉月)

1日 8月の月テーマ「沖縄」スタート
4日 読書会「なんとなく目を逸らされがちな〈ジェンダー〉を読み、語る会」(第1回)
5日 イベント「ウクライナとロシアを子どもの本で語る『戦争が奪う子どもたちの未来』」
16日 読書会「まちの居場所づくりを考える」(第1回)
26日 イベント「『ポスト島ぐるみの沖縄戦後史』刊行記念トーク 沖縄研究と学術出版の今を語る」
27日 高円寺阿波踊り。

9月(長月)

3日 イベント「ビートルズ本のつくりかた」(第2回)
27日 イベント「登り口倫子×安達茉莉 個人的なことを書くこと、それは運動？」

10月(神無月)

1日 「長屋通信」創刊

編集後記

暑いさなか始まった待望の出版部の活動。対面少しと数多くのメールのやりとりを経て今日を迎えました。本の、高円寺の、楽しいことと愛おしいことを盛り込んで、「長屋通信」をもう一つの場々に、皆様と一緒に育てていけたらと思っています。リアル長屋でも、また。《うさぎ舎 books》本田（大いに）編集長の力に頼ったスタートダッシュでした。「本の長屋」は、人とカルチャーと、また人とが豊かに交差する素敵な場所です。その独特な魅力をより広く伝えられるよう、出版部の一員としてより「長屋」を愛し、楽しく充実した誌面づくりに貢献する所存です。次号以降もお楽しみに！ 《書肆言衿》秋山

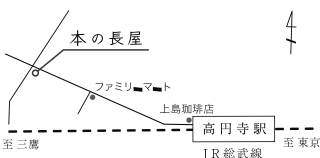
当初予定から随分と遅れてしまいましたが、ようやく創刊号を世に送り出すことができました。ご協力いただいた皆さまに、改めて感謝申し上げます。今後はさらなる誌面の充実を図ってまいります。どうぞ、あたたかくお見守りください。

《書肆アサンブレア》田端

本の長屋



@honnonagaya



〒166-0002 東京都杉並区高円寺北3-8-13

「本の長屋」のクラウドファンディングが始まって間もない2月23日、「長屋」で最初に開催されたイベントのタイトルが「読む、書く、作る、売る。本の長屋でできること。」だった。その後、今号でも触れたような苦労を経て、「長屋」はオープン。まずは「読む」「売る」場として、「長屋」は立ち上がってきた。

創刊の辞

さて、お次は「書く」「作る」の番である。そのひとつのきっかけ、具体的な場所として準備されたのが、この「長屋通信」だ。原稿のほとんどが函店主の筆によるもの。編集も「本の長屋出版部」が担当した。出版部では将来的に「長屋」オリジナルの書籍発行も目指している。「長屋通信」創刊をその細やかな第一歩としたい。

「長屋通信」からのお知らせ

●出版部員、募集中！

出版部では「長屋通信」の編集に関わってくれる函店主の方を募集しています。年齢・性別・経験不問。「通信」づくりを真面目に気楽に楽しみましょう。

●連載コーナー「函店主の高円寺」の原稿を募集します。

「函店主の高円寺」は、函店主が高円寺のお気に入りのお店、場所を紹介する連載コーナーです。連載がたまったら「本の長屋」オリジナルの「高円寺まち歩きマップ」(仮)の制作を考えています。

▶詳しくは「本の長屋」出版部にお問い合わせください。
syuppan-dept@honnonagaya.com

10月の月テーマ「好きな作家とその仲間」

好きな作家は誰にでもいるはず。今月の「本の長屋」では、函店主が好きな作家とその仲間の本を持ち寄ったフェアを開催します。

作家と作家のつながりから、新しい読書の世界を広げてみませんか？

11月の月テーマは「中央線とその先の街」です。

こちらのフェアも、乞うご期待！